



「きらめく秋葉区」に向けた  
あなたの提案をお待ちしています

きらめきサポートプロジェクト  
KIRAMEKI SUPPORT PROJECT supports your problem

## 事業実施報告書

■応募数 9 事業

■1次審査 令和元年7月17日(水)書類審査

■2次審査 令和元年7月26日(金)プレゼンテーション審査

■採択事業 4 事業 (応募順)

No.	団体名	事業名	担当委員 (○代表)	担当課
1	にいがた農えん隊	土づくりワークショップの 定期開催による生ゴミ減量 &食育アクション	○金子 本多	産業振興課
2	小須戸 コミュニティ協議会	在郷町小須戸～ 地域の宝探しと「秋葉ひなめぐり」	○小林 宮腰	小須戸 出張所
3	新津東部 コミュニティ協議会	新津川ふるさと還りプロジェクト	○須田 小林 前田	教育支援 センター
4	小口遊林倶楽部	秋葉山分岐点案内図設置	○伊藤 小林 齋藤 本田	建設課

令和元年度 秋葉区自治協議会提案事業  
「課題解決きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

団体名	小口遊林倶楽部
代表者 住所	新潟市秋葉区小口1055
氏名	渡辺和典

1 提案事業名

「秋葉山分岐点案内図設置事業」

2 事業内容

小口の里山一帯の案内看板、並びに、かつて隆盛を極めた小口油田工場跡図を作成し、それに伴う案内表示板を設置した。

3 総合評価（目的と成果）

○秋葉区自治協の今回の提案事業の趣旨

「秋葉山東側に位置する小口の里山には、縄文人の遺跡、承久の乱（鎌倉時代）にかかわる若宮皇子の悲劇、また、金津油田と肩を並べた小口油田、お茶の産地として一世を風靡した小口の里など、史跡や文化的遺産が数多く残っている。

この小口や金津の里山、秋葉公園を結んだ秋葉丘陵一帯の遊歩道を整備しリンクすることによってより多くの人を呼び込みたい。そのための案内板や標識の設置は必要である。」

という強い思いに賛同し、この事業に参加させていただいた。

○小口にとっても今後地域の文化遺産を広くPRすることができ事業の効果は大きい。

○令和2年8月には、小口観音様33年大祭、11月には、若宮800年忌も行われるなど歴史的な事業を控えていることから、今回の事業は絶好のタイミングであった。

○今回の事業にあたり、秋葉区役所の各部所（地域総務課・産業振興課・建設課等々）の関係者、そして、自治協関係者とかがかわる機会が得られたことも意義があった。

3 今後の取り組み（次年度以降）

○近年、小口の里山を訪れる人が増加している。訪れた人からは、こんな素晴らしい所をなぜもっと宣伝しないのかという声もよく聞かれる。今後も区の里山ガイドの会などと連携した取り組みを重視していきたい。

○地元小学生は小口の里山を訪れ、総合の学習に成果を上げている。今後観音山のみならず、かつての石油の里も案内板を使って紹介したい。

○「木漏れ日の遊歩道」をもっと歩きやすいように草刈の手を広げたい。

○方向案内版の設置に伴い、遊歩道を歩いてみたら擬木を使った案内板がかなりあった。しかし、板が朽ちて用をなしていない箇所が見られた。擬木は十分使用できるので板の付け替えを要望すると同時に、行政と一緒に作業を実施できればと考える。

5 実施状況写真



令和元年度 秋葉区自治協議会提案事業  
「課題解決きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和2年4月17日

団体名 小須戸コミュニティ協議会

代表者 住所 新潟市秋葉区小須戸 120 番地 1

氏名 会長 佐藤 喜代一

## 1 提案事業名

在郷町小須戸～地域の宝探しと「秋葉ひなめぐり」

## 2 事業内容

2月1日～3月4日までの期間、小須戸地区では約30店舗の協力店でひな人形を飾って「在郷町小須戸 ひな・町屋めぐり」を実施。新津地区では約30店舗の協力店や施設で「鉄道の街にいつひな・お宝めぐり」として、雛飾りや各お店のお宝などを展示。新津地域交流センターには市内の保育園・幼稚園などによる吊るし飾りを飾り、さらに、両地域を回遊できるようなスタンプラリーを実施。

(別紙パンフレット参照)

## 3 総合評価（目的と成果）

3年間小須戸地区のみで実施してきた事業を、今年度は新たに新津地区にも広げようと企画し、自治協議会との協働で新津商店街連合会から協力をしてもらったことで、当初の目的は達成できたと思う。

新津の商店街では各店舗が大変熱心に協力してくれた結果、拠点の一つである村木呉服店さんでは入場者数が1,700名を超える入場者があった。また、新津地域交流センターには新津中央コミ協の協力で、園児たちによる見事な折紙の吊るし飾りがたくさん飾られ、親子や三世代で見に来てくれる人が大変多く大好評で、来年もぜひ実施してほしいという声がたくさん聞かれた。

、小須戸地区は、拠点の町屋ギャラリー薩摩屋では手作りのひな人形の展示が好評で、期間中1,000名を超える入場者があった。新津・小須戸どちらの地域も、地元の人も地域外の人もたくさん見に来て喜んでもらった評判の良い事業であったと思う。

また、今回の事業は準備の段階から地域の人が多く関わってくれたことで、地域密着型の事業となり、大変良かったと感じられた。

## 4 今後の取り組み（次年度以降）

次年度も今年度同様に小須戸地域と新津地域で合同で開催する予定である。特に新津側から事業終了直後から、来年はもっと良いものにしたいという熱い思いがひしひしと感じられ、秋葉区が一体となって盛り上がるようなよりよい事業したいという機運が高まっている。

具体的には、昼食を食べて小須戸と新津を一日かけて楽しめるようなまち歩きイベントの実施や、区バスを上手く利用して、両方を回遊できるコースを設定するなど、区バスの利用した秋葉区の冬のイベントとして定着できるようにできれば良いと考える。

5 実施状況写真（※ 別紙でも可）



令和元年度 秋葉区自治協議会提案事業  
「問題解決きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

団体名 新津東部コミュニティ協議会  
代表者 住所 新潟市秋葉区新津東町 1-5-12  
氏名 会長 齋藤 龍秋

1. 提案事業名

新津川おかえり\*灯り ぷろじえくと

\*申請時の事業名「新津川ふるさと還りプロジェクト」

→事業採択後の実行員会で協議し、事業名を変更しました。

2. 事業内容

●原田先生の公開制作 その1

日時：令和元年9月10日（火）～9月27日（金）

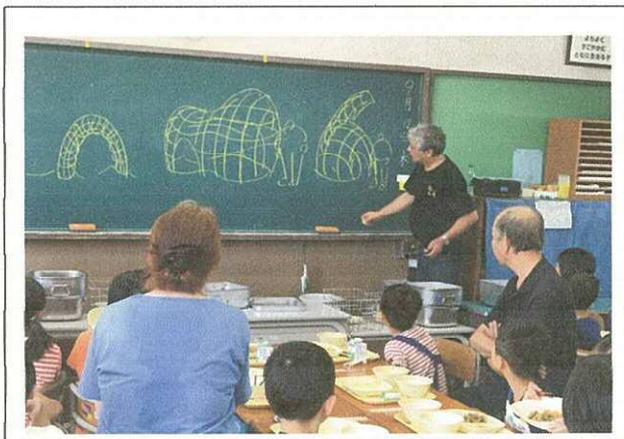
場所：新津第二小学校 体育館 ステージ上

・二小 体育館ステージ上で、彫刻家 原田哲男先生が、竹を素材に、大型灯籠 3基を制作する。

・制作には、アートサポーターとして、募集した地域の方々、大学生、五中美術部が参加。

・原田先生、奥様は、制作中、何度か、二小の児童と一緒に教室で「給食」を食べ、子どもたちに、作品の事だけでなく、色々な事についてお話をして下さいました。

→世界で活躍する、二小の先輩から、様々なお話を伺うことは、子どもたちにとって、将来の「大きな糧」となったのではないかと思います。



●公開制作には、アートサポーターとして地域の方々、五中美術部、大学生、地域の方々が参加。

●児童と一緒に給食を食べた後、子どもたちに「大型灯籠」の説明を行う原田先生。



●原田先生の公開制作 その2

日時：令和元年 10月1日（火）～10月11日（金）

場所：新津川 河川公園（新津図書館裏）

- ・新津川 河川公園に大型灯籠を運搬し、現地で、最終の制作作業を行う。
- ・原田先生の願いで、アートサポーターは、もちろん、通りがかりの人にも気軽に制作に加わってもらいながら行った。
- ・10月1日には、二小の六年生が、大型灯籠を原田先生と一緒に、「神輿」のように担いで、二小の体育館から、新津川の河川公園まで運んでくれました。

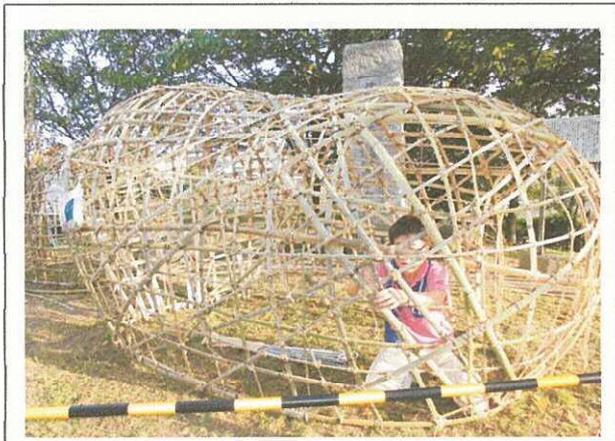
\*広報関係

10月4日 ラジオチャットにて、公開制作の宣伝放送。

新潟日報に記事掲載。



●大型灯籠の運搬：原田先生と6年生児童と一緒に運んでくれました。



●新津川での公開制作にもアートサポーターの方が協力してくれました。



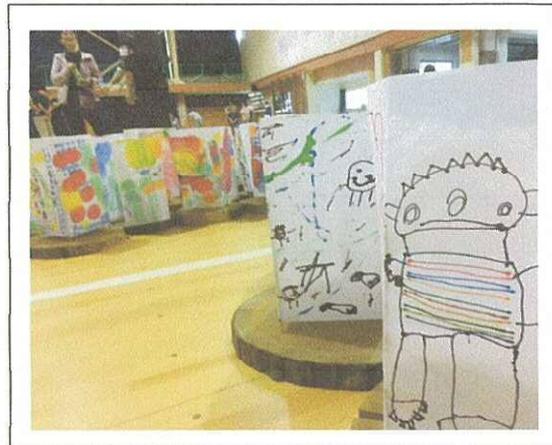
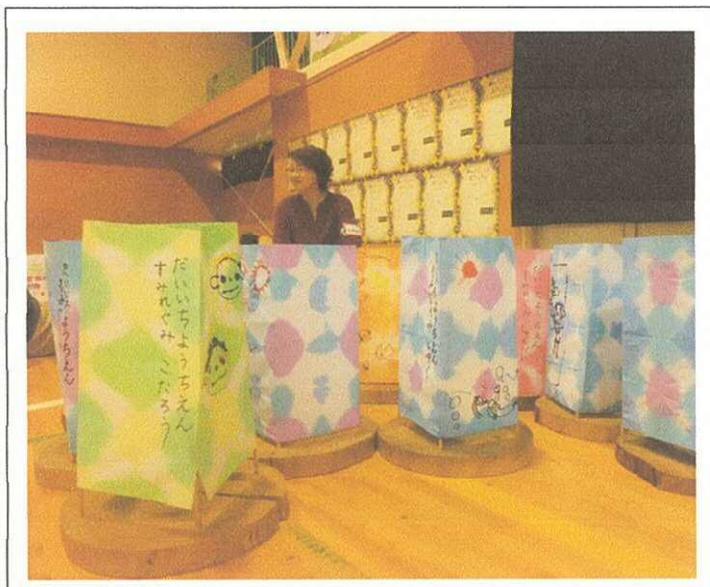
●通りがかりの人にも興味津々

### ●紙灯籠制作

・紙灯籠の風よけ紙の部分を事前に、区内の保育園、幼稚園、二小低学年児に配布して風よけに、絵や言葉を描いてもらいました。(200個作成)

・灯籠の土台は、岩室の「灯籠流し」で使用している物を岩室支所よりお借りしました。

10月10日(木) 受け取り 10月15日(火) 返却



●紙灯籠の「風よけ」は、事前に、子どもたちに作ってもらいました。

### ●竹灯籠づくりワークショップ

日時：令和元年10月13日(日) 14:00～15:30

場所：新津第二小学校 体育館

・参加人数 129名 制作数(子どもの人数) 75個 参加家庭 41組

・当日ボランティア 59名

⇒先着99組で参加者を募集し、10月初旬には定員となった。当日は、台風19号の影響もあり、当日キャンセルも出たが、多くの方々にご参加頂いた。

当日ボランティアは、東部コミ協関係、二小教職員、二小PTA、五中PTA、五中美術部、五中生徒会有志に呼びかけを行った。

同じく台風の影響で、五中美術部、五中生徒会有志については、五中校長先生と協議し、原則参加しないこととなったが、親子で参加してくれた方もあった。

□灯籠づくりワークショップ プログラム

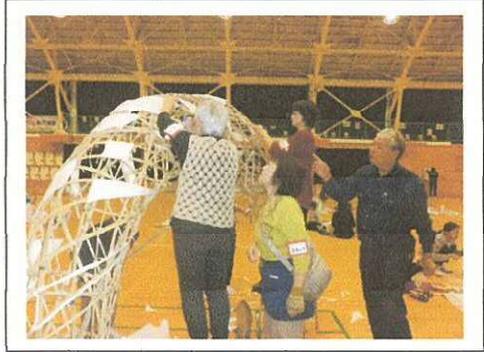
1. 原田先生の大型灯籠の説明・解説

2. 竹灯籠づくりの作り方の説明

3. 風よけ紙のデザイン

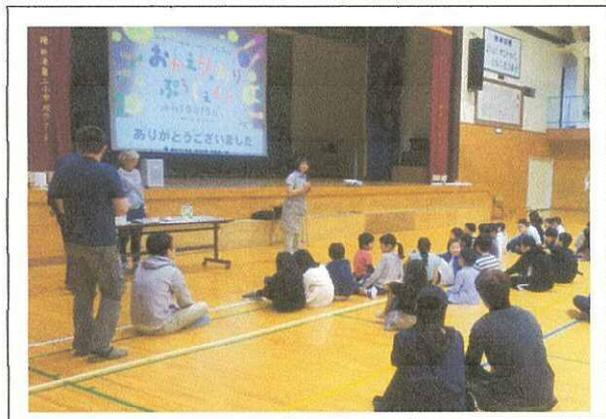
原田先生、本間さんの実演

4. 親子で竹灯籠づくり 開始



●大型灯籠の最終調整作業

WS 開始前に原田先生の指示の下、スタッフが最終作業を行いました。



●灯籠づくりワークショップ

灯籠の作り方を説明した後、原田先生、本間さんの「風よけ」制作実演。



●親子で「竹灯籠」づくりに挑戦！

## ●点灯式

日時：令和元年 10 月 13 日（日） 16:00～18:30

場所：新津第二小学校 体育館

点灯式 セレモニー 来賓 秋葉区 夏目区長、新津美術館 山口副館長  
新潟薬科大学客員教授 目黒様

点灯式 参加人数 見学者含め 300～400名程度

⇒新潟日報 10月16日 朝刊 記事掲載

□採択された事業提案書では、点灯式は、17:00～18:30 の予定で新津図書館裏の新津川河川公園にて行うこととしていたが、9月13日（金）の実行委員会において、自治協の小林委員より、出来るだけ多くの方々に見てほしいとの理由で、点灯式を21時頃まで延長できないかとの提案がありました。

実行員会で協議した結果、片づけ作業の人員確保や駐車場の確保の面で難しいのではないかと意見も出されたが、片づけ用の人員確保、駐車場の確保について小林さんが、行う事を条件として、20時頃までの延長が決定しました。

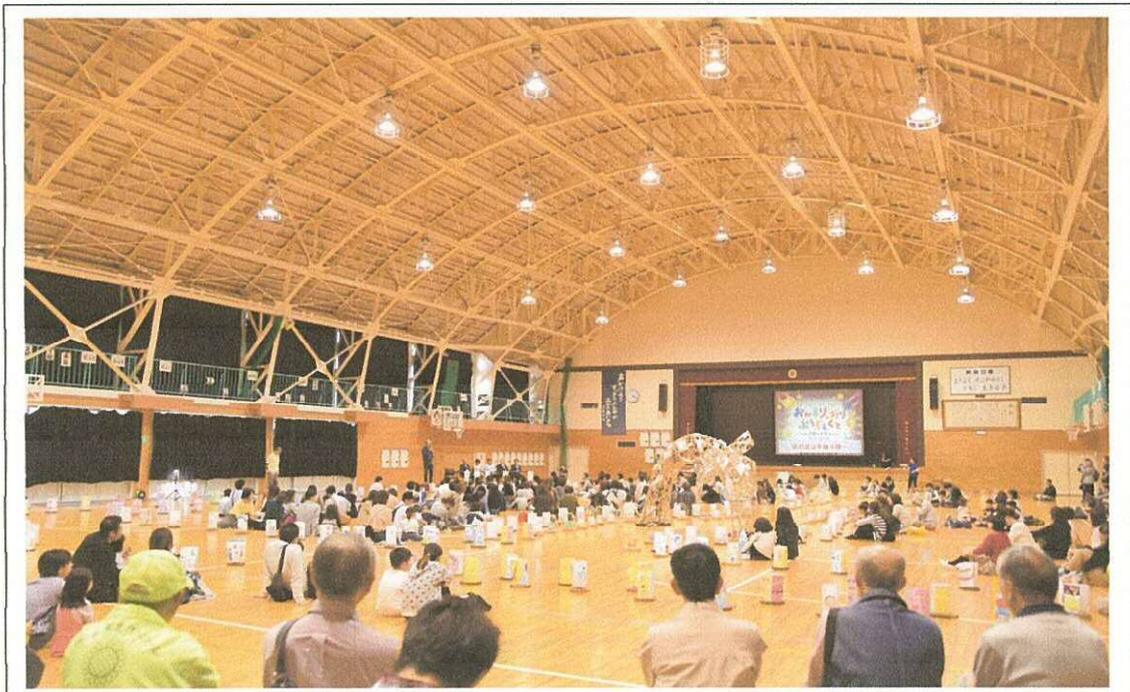
⇒後日、小林さんより、片づけ用の人員として、新津中央コミ協から10名程度を確保したとの事、駐車場については、ベルシティ閉店後は、屋外の駐車場の使用許可が取れたとの報告がありました。

■実際には、台風19号の接近で、新潟市内の各イベントが、中止・順延との決定を行った事もあり、10月11日（金）に、緊急会議を行い、対応を協議した結果、点灯式については、新津川河川公園を断念し、新津第二小学校 体育館で行う事、イベントの開催については、10月13日（日）の7時40分の段階で、地域内の被害状況、気象状況等を考慮し判断することが決定されました。

⇒結果的には、台風19号は、13日の早朝には、新潟から離れていたこと、地域内にも大きな被害や避難勧告等も出されていなかったこともあり、灯籠づくりWS、点灯式のセレモニー、点灯式を新津第二小学校 体育館で行う事が出来ました。

また、屋内の開催であり、点灯式の終了時間も18:30に短縮することとし、片づけのための協力をお願いしていた新津中央コミ協さんにもお断りのご連絡を致しました。

事業の目的から考えると、新津川河川公園での点灯式、灯籠流しが出来なかったことは、心残りではありますが、原田先生が、フランスにお帰りになる予定もあり、原田先生に参加してもらう形で、何とか、灯籠づくりWS、点灯式を行う事が出来たのは良かったと思っております。



● 灯籠の設置作業

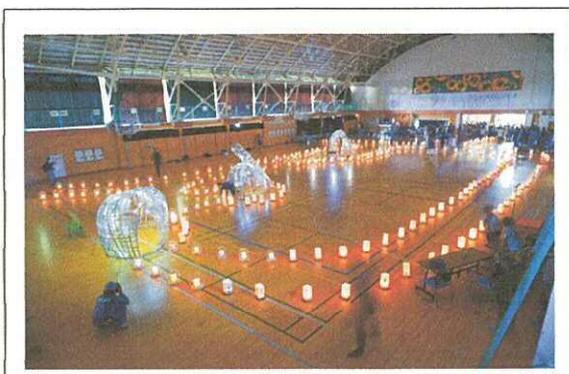
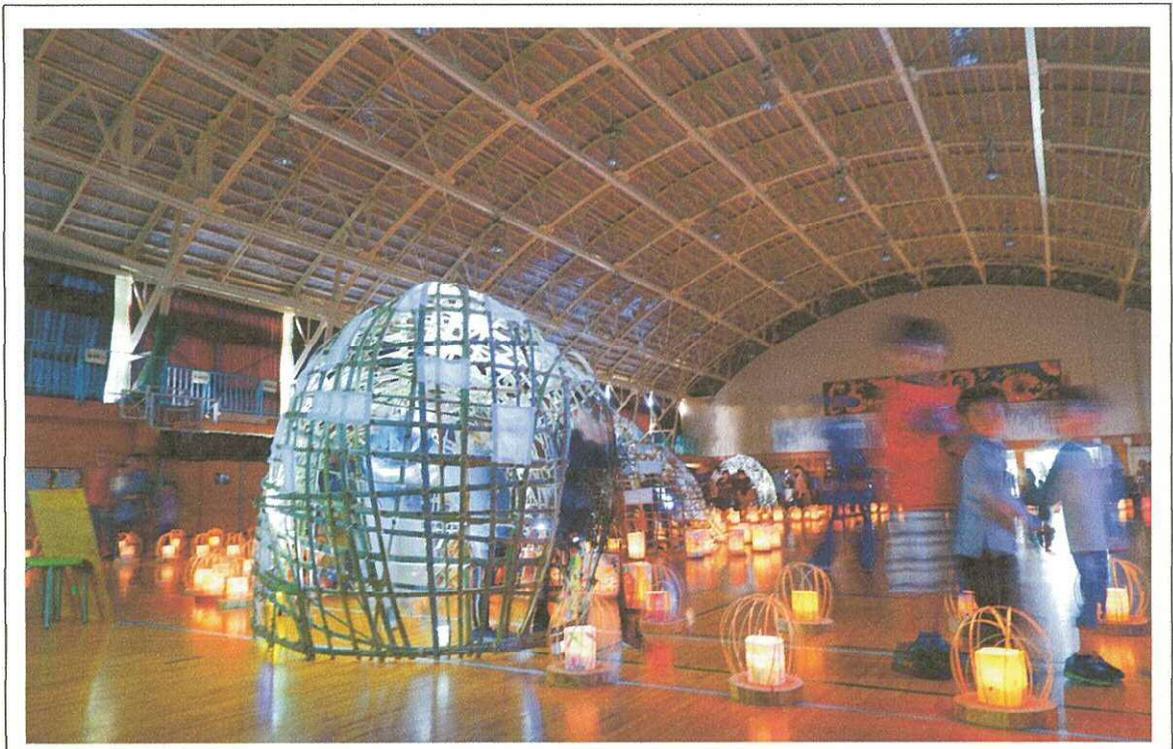
原田先生の指示で、3基の「大型灯籠」をつなぐ「通路」を「竹灯籠」「紙灯籠」を並べて設置しました。



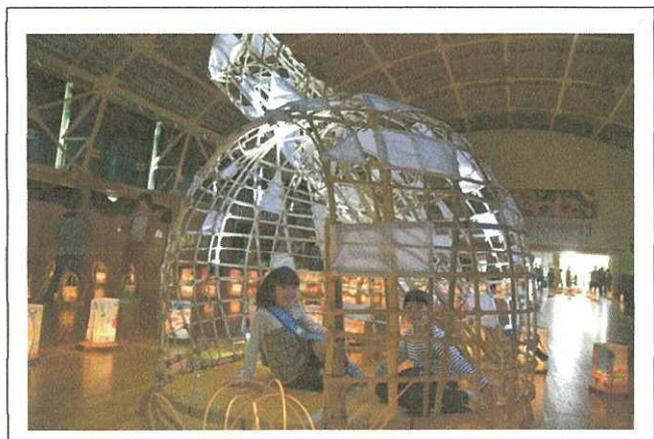
●点灯式セレモニー

セレモニーには、夏目区長、  
新津美術館 山口副館長、新潟  
薬科大学客員教授 目黒様に、  
来賓としてご臨席頂きました。

夏目区長には、祝辞のご挨拶  
をして頂きました。



● lanterns of 『light』 made a path and walk around 3 bases  
of 「large lantern」 freely.



●新津第二小学校 文化祭での展示

日時：令和元年 10月26日（土） 10:00～14:00

場所：新津第二小学校 中庭、1階 会議室前廊下

新津川おかえり＊灯り ふろじえくとの様子をまとめたパネル展示、「竹灯籠」を廊下に展示するとともに、原田先生の「大型灯籠」3基を二小の中庭に設置して来場者の方々にご覧いただきました。

⇒その後、「大型灯籠」は、二小の「校歴室」で保管・展示しています。



●新津川おかえり＊灯り ふろじえくと 記録用 DVD 作成



新津川おかえり＊灯り ふろじえくと 2019 の記録用 DVD を作成しました。

### 3. 総合評価（目的と成果、課題）

#### ●本事業の目的

新津川おかえり＊灯り ぷろじえくとは、約 25 年間、新津川に鮭の稚魚を放流するなど  
の総合学習を継続してきた新津第二小学校の実績を踏まえ、

- ①児童が放流した稚魚が大きくなり、ふるさと新津川に帰ってくることを。
- ②総合学習で新津川に親しんだ子どもたちが再び、新津川のほとりに帰ってくることを。
- ③新津の子どもたちが今後、地域を離れ、広い世界で多くの事を学び、大きくなった時に  
鮭と同じようにふるさと新津に帰って来ること。

を願う『3つのおかえり』という想いが込められています。

感性豊かな子どもたちにとって、プロの作家・芸術家さんと直接触れ合いながら、協力し  
て何かを創造することは、生涯忘れるの事の出来ない貴重な経験となると思います。

二小、五中の卒業生で、子どもたちにとって、大先輩の原田哲男先生の制作活動を自分の  
目で見る事ができたこと、一緒に作業を行う中で、原田先生から語り掛けられた言葉を聞く  
ことで、何か1つでも、子どもたちの心に残ることも願っています。

原田先生が、初めて挑戦する素材「竹」を使い、子どもからお年寄りまで、多くの市民と  
一緒に制作する「大型灯籠」、原田先生の指導の下、親子の参加者がワークショップで制作  
する「竹灯籠」、新潟市岩室地域の「灯籠流し」で使用されている灯籠の土台と支柱をお借  
りして、その上に、新津の未就学児や小学校低学年児が、思い思いの願いや絵・デザインを  
描いた「風よけ」を取り付けた「紙灯籠」を河川公園に展示して、新津川を温かい『灯り』  
で彩り、新しい秋の風物詩を創ることを目指して行いました。

#### ●本事業の成果

本事業の実現に向けては、秋葉区出身の世界的彫刻家 原田哲男先生、新潟市南区まちづ  
くりアドバイザーの本間智美さんの協力、秋葉区地域総務課、秋葉区教育支援センターの  
全面的な支援のもとで、秋葉区自治協議会、新津第五中学校、新津第二小学校と新津東部コ  
ミュニティ協議会が実行委員会を結成し、進めて参りました。

きらめきサポートプロジェクトの採択は、7月末であり、実質約2か月という短期間の中  
で、本事業を何とか企画・実行できたことは、実行委員をはじめ、行政や多くの皆様方のご  
協力があったからだと思っています。

立場の異なる多くの方が混在した実行委員会であり、多少の意見や・想いの相違もありま  
したが、1つの目標に向けて何とか行動し、結果を出すことが出来たことは大きな成果の1  
つであり、様々な形で、関わって頂いた皆さんに改めて感謝申し上げます。

10月13日は、台風19号の影響で、新津川の河川公園での展示、点灯式セレモニー、点灯式を行うことが困難となり、新津川を温かい『灯り』で彩り、新しい秋の風物詩を創ることは、残念ながら出来ませんでした。新津第二小学校の体育館で行われた点灯式では、体育館が、非日常的で幻想的な空間となり、参加された皆さんは勿論、スタッフも感動することが出来ました。

新津川との関わりという点では、原田先生が、新津図書館裏で、「大型灯籠」の公開制作を行う事ができ、多くの方に興味を持って貰えたことは良かったと思います。

二小体育館ステージ上での「大型灯籠」の制作には、五中美術部、大学生、地域の方々が、アートサポーターとして協力して下さいました。

世界的な彫刻家 原田先生の制作に関わったことは、皆さんの貴重な体験となったと思いますし、この制作風景を自分の目で見ることの出来た、二小の子どもたちにとっても大きな体験となったと思います。

また、二小での製作期間中は、原田先生や製作スタッフの方々は、二小の教室で児童と一緒に給食を食べながら作品への想いを語って頂きました。

この貴重な体験を通じて、子どもたちの心に、きっと「何か」が、芽生えたのではないかと信じていますし、「何か」が芽生えたとしたら、これも大きな成果であると思います。

東部コミ協は、これまでも様々な活動を通じて、二小、五中さんとの「つながり」を築こうと努力してきておりますが、今回の事業を通じて、13日の当日、日曜日であるにもかかわらず、多くの二小の先生や二小PTA、五中PTAの皆様ボランティアとして協力頂くことが出来ました。(当日ボランティアスタッフ 約60名)

これも成果の1つであると思います。

実行委員会で反省会を行うに際して、協力して頂いた皆さんにお願いして「ふりかえりシート」への記入をお願いした所、皆さんからは、台風の影響で、新津川で点灯式を行う事が出来なかったことは、共通して残念な事として、上げられておりましたが、全体的には、好意的な感想を上げられておりました。

体育館での開催となったために、18:30で点灯式を終了し、片づけ作業を行いました。新津川からの物資等の移動もなく、二小内での「片づけ」であり、19時には、全ての作業を終了することが出来たことも皆さんの好評価につながったのではないかと思います。

新津川で行っていた場合は、20時から片づけで、速くても21時頃までかかっていたと思われるので、この点では、屋内開催で良かった点であるかなと思います。

でも・・・「新津川での灯り」も見なかったですが・・・

## ●本事業の課題

本事業は、「問題解決きらめきサポートプロジェクト」の事業であり、事業採択が、7月下旬となっており、10月13日の当日まで、時間がない中で実施しました。

事業採択までは、経費的な面もあり、本格的な準備を進めることも出来なかった点で、スケジュール的に非常に厳しいという事が、課題であると思います。

また、東部コミ協の事業年度は、4月～3月であり、事業計画は、4月の段階で企画し、4月末の代議員会で議決されるため、今回の事業については、年度途中で、新しい事業ということで、執行部の判断で取り組む形になっております。

事業の性格上、難しい面もあるかと思いますが、理想的には、前年度中で、提案応募を行い、3月までに事業採択が行われる形であれば、東部コミ協としても、新しい年度の事業計画に明確に事業を盛り込むことが可能となり、十分な準備時間も取れると思います。

行政の予算の面で、前年度での採択は、不可能に近いとは思いますが、検討して頂き、前年度が無理であれば、少しでも事業採択の時期を前倒しに出来るような検討をお願いしたいと思います。

今回は、台風の影響で、新津川での点灯式が出来なかったことが、最大の心残りであり、事業目的である「新しい秋の風物詩を創る」ためには、再度、新津川を温かい『灯り』で彩るイベントに再度挑戦出来たらという思いを持っております。

また、今回、原田先生が制作した3基の「大型灯籠」も、新津川での公開制作の中で、原田先生から「大型灯籠」の設置場所、レイアウトコンセプトの指示も頂いており、一度、原田先生のレイアウトイメージに従って、河川敷に設置し、『灯り』を灯すことが出来ればと思っております。

今回の素材は「竹」であり、半永久的に形を残せる物ではないため、少しでも長く保存できる方法を検討するとともに、形あるうちにどのような活用方法があるのかも検討することも課題であると思います。

## 4. 今後の取り組み（次年度以降）

現時点では、具体的な今後の取り組みについては決定しておりませんが、原田先生の「大型灯籠」の活用、新津川の新しい風物詩の創造、子どもたちとプロの作家・芸術家さんとの交流の継続を行うという観点から、何らかの取り組みを行う必要性は認識しており、二小、五中とも協議を行い、今年度と同様に「問題解決きらめきサポートプロジェクト」への事業提案を行うか、東部コミ協事業として行うかも含めての検討を行っていきたいと考えております。

以上

令和元年度 秋葉区自治協議会提案事業  
「課題解決きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

団体名 特定非営利法人 にいがた農えん隊  
代表者 住所 新潟市秋葉区善道町 2-11-29  
氏名 高塚 俊郎

## 1 提案事業名

土作りワークショップの定期開催により生ごみ減量&食育アクション

## 2 事業内容

土作りワークショップで家庭から出る生ごみを使った土作りを学び、最初の実践の為の「野菜栽培キット」で野菜を育ててもらおう。その成功体験から継続して次の土づくりの実践に移っていただく仕組みをつくる。

また野菜栽培キットの作成の際に福祉作業施設と連携し、作業を請け負ってもらえるような循環をつくる。

## 3 総合評価（目的と成果）

野菜栽培キットの開発により福祉作業施設との関係が始まり、野菜栽培キットづくりに留まらない農福連携が始まった。

今後より幅広い層へ土作りや作物を育てる楽しさを広めるツールができた。

土づくりワークショップを通して参加者同士の交流も深まり、新たなコミュニティ創出へ向けての第一歩となった。

## 4 今後の取り組み（次年度以降）

2度のワークショップを通しスタッフのブラッシュアップを図ることができたので、今後も定期的にワークショップを開催しより多くの方に土作りを知ってもらおう。

福祉作業所と連携し野菜栽培キットを作り販売できるような体制を作っていく。

## 5 実施状況写真









